

着衣着火に注意!

着衣着火での火災死亡者のほとんどが高齢者です

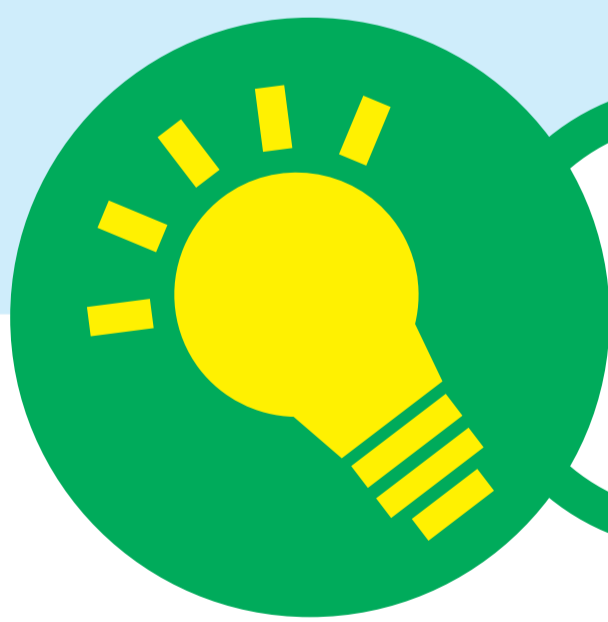
コンロでお湯をわかすため、火をつけたとき、袖口のボタンをはずしていたため、火がついてやけどをした。(70代)

エプロンの腰の紐を前でリボン結びしていたら、そこにガスコンロの火がつきそうになった。(70代)

奥に置いてある鍋を取ろうとしてコンロの上に手を伸ばしたところ、セーターに火がつき手首をやけどした。(80代)

仏壇の掃除中に、ろうそくの火が寝間着の袖に燃え移り、大やけどをした。(80代)

炊事の際、コンロの向こうに落ちた食材を拾おうとしたところ、ワイシャツの袖に火がついた。(60代)



着衣着火の防止のために、ここに注意!

- すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- ガステーブル等の奥に、物を置かないようにしましょう。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。

もし着衣に火がついてしまったら脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう!